



# 中央中だより

《学校の教育目標》

たくましく未来を切り拓く生徒の育成

4月号

令和3年4月14日

## 令和3年度始業式・入学式にて

本日、275名の新1年生を迎え、792名の生徒の皆さんと61名の教職員で、令和3年度の中央中学校がスタートします。

新1年生の皆さん、入学おめでとう。新2年生、新3年生の皆さん、進級おめでとう。入学、進級という節目を迎えました。「節目」と聞くと、竹の節をイメージする人も多いのではないのでしょうか？竹は、節の数が多いほど、地に大きな根を張り、折れにくく、高く伸び、力強くなるそうです。私たち人間も同じです。節目ごとに気持ちを新たに、次へ向けて頑張っていく。この繰り返しの中で、豊かな心と丈夫な体が育っていくのです。ですから、皆さんには、この入学、進級という「節目」を大切にしたいと思うのです。

仮に、これまでうまくいかなかったと思うことが多くあったとしても、新たな気持ちで、前を向いて歩いていこうとする心構えをつくることができるのが、この「節目」の持つ意味です。そこで、今年度のスタートにあたり、二つの話をします。

一つ目は、皆さんに身に付けて欲しい力についてです。それは、「自律力」です。「自律力」とは、自分で考え、判断し、自分とまわりにとってよりよい行動ができる力」のことを言います。新3年生にとっては1年後、新2年生にとっては2年後、新1年生にとっては3年後に、次の大きな節目を迎えます。義務教育を終え、一人一人が進路を実現させていく「卒業」です。自分の人生の目標に向かって、一人一人が自分の足で歩み始めます。自分の足でしっかりと大地を踏みしめ歩むことを「自立」と言います。皆さんは今、まさしく自分の足で歩み始める「自立」に向けての準備をしているのです。その時に、しっかりと「自立」できるようにするために、今「自律力」を身に付ける必要があるのです。

「自律力」を身に付けるポイントは4つです。

- ①目標の達成に向けて、見通しをもってひたむきに取り組む。
- ②感情をコントロールし、相手の立場も考える。
- ③考えの相違を受け入れ、折り合いをつける。
- ④情報を適切に活用する。

卒業を迎えるときに、大きく羽ばたいていく皆さんを応援します。

二つ目は、誰にとっても安心・安全な学校生活を築くことです。

詩人の宮澤章二さんの「行為の意味」という詩の一節に、「「こころ」は誰にも見えないけれど、「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にでも見える。」というフレーズがあります。思うだけでは相手に伝わりません。思いを言葉にしたり、行動にしたりすることに意味があるのです。皆さんには、「自分がされて嫌なことは、人にもしないこと」はもちろんのこと、さらに一歩進んで、「自分がしてもらってうれしいことは、人にもしてあげる」そんな中学生になって欲しいと思います。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中での活動となりますが、仲間よさに目を向け、ひとりひとりの「こころづかい」や「思いやり」で溢れる温かい学校にしていきたいでしょう。

万一、仲間との生活の中で、辛いことや悲しいことが続いたり、「いじめられている」と感じるものがあつたりした時は、相談しやすい先生に声をかけてください。先生たちは全力で解決に向けて取り組みます。

中央中学校の令和3年度がスタートします。新しい学年、クラスでの学校生活をより豊かなものにしていけるよう、生徒の皆さんと先生たちとで創りあげていきましょう。

保護者の皆様、お子さんが「自律力」を身に付け、「思いやり」と「心づかい」があふれる温かい学校となるよう、全職員が精一杯努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

校長 奥村 篤